

学生の確保の見通し等を記載した書類

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

・ 定員充足の見込み

岡山大学医学部医学科の平成 20 年度以降の入学定員については、平成 21 年度に「緊急医師確保対策」に基づき平成 29 年度までの期限を付した 5 名の臨時定員増を、平成 22 年度に「経済財政改革の基本方針 2009」に基づき平成 31 年度までの期限を付した 7 名の臨時定員増を、平成 23 年度には「新成長戦略」に基づき平成 31 年度までの期限を付した 3 名の臨時定員増を、また、平成 30 年度には、平成 29 年度までの期限を付した増員暫定措置の延長として平成 31 年度までの期限を付した 2 名の臨時定員増をそれぞれ実施した。さらには、平成 21 年度に「経済財政改革の基本方針 2008」に基づき 5 名の恒久定員増を実施した。

令和 6 年度を期限とする 9 名（地域枠：岡山県 4 名，広島県 2 名，鳥取県 1 名，兵庫県 2 名）の入学定員について、令和 7 年度までの期限を付した再度の入学定員増においては、地域枠 7 名（地域枠：岡山県 3 名，広島県 2 名，兵庫県 2 名）の入学定員増を行い、令和 7 年度の入学定員を再度の定員増を行わなかった場合の 100 名から 107 名に変更する。

本学医学部医学科の平成 30 年度から令和 6 年度の 7 年間の志願者数（一般入試，推薦入試，国際バカロレア入試，私費外国人特別入試）は、349 名から 600 名の間で推移しており、平均志願者数は 429 名で、平均志願倍率は 3.86 倍である。

このうち、岡山県，広島県及び兵庫県の地域枠コース志望者を対象とする推薦入試の状況は、次のとおりである。

・ 岡山県地域枠

平成 30 年度～令和 6 年度（入学定員 4 名）

志願者数 22 名から 37 名 平均志願者数 30.0 名

平均志願倍率 7.5 倍 入学定員充足率 100%

・ 広島県地域枠

平成 30 年度～令和 6 年度（入学定員 2 名）

志願者数 4 名～14 名 平均志願者数 10.0 名

平均志願倍率 5.0 倍 入学定員充足率 50.0%

・ 兵庫県地域枠

平成 30 年度～令和 6 年度（入学定員 2 名）

志願者数 11 名～24 名 平均志願者数 17 名

平均志願倍率 8.5 倍 入学定員充足率 78.6%

本学医学部医学科の推薦選抜では、その他の選抜との学力差を生じないように、大学入学共通テストの基準点（おおむね780点）を厳格に設定している。そのため、令和2年度選抜、令和3年度選抜において欠員を生じた県があり、県との高校訪問や説明会をよりきめ細やかに開催するとともに、令和4年度選抜以降は第二次募集を実施している。なお、第二次募集においても、十分な学力担保のため、大学入学共通テストの基準点を設定している。令和6年度選抜で広島県に欠員が生じたものの、それ以外は定員を充足している。説明会やオープンキャンパスでは、地域枠コースに関する説明、本学地域医療人材育成講座の教員による個別質問ブース及び地域枠の在学生との質疑応答の場を設定しており、受験予定者が高い興味を示している様子が見られる。そのため、次年度以降においても相当の志願者及び受験者が見込まれることから、明確な目的意識を持った優秀な学生の確保が可能である。

《入学試験実施状況（一般入試，推薦入試，国際バカロレア入試，私費外国人特別入試）》

区分・ 入学年度	平成30 年度	平成31 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度
募集人員	112	112	112	112	112	109	109
志願者数	380	407	465	424	600	349	376
志願倍率	3.4	3.6	4.2	3.8	5.4	3.2	3.4
受験者数	361	369	412	382	415	326	336
入学者数	112	112	110	108	112	109	108
定員充足率	100%	100%	98%	96%	100%	100%	99%

《推薦入試（岡山県地域枠コース）実施状況》

区分・ 入学年度	平成30 年度	平成31 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度
募集人員	4	4	4	4	4	4	4
志願者数	35	23	35	33	22	25	37
志願倍率	8.8	5.8	8.8	8.3	5.5	6.25	9.25
受験者数	35	23	29	33	21	23	35
入学者数	4	4	4	4	4	4	4
定員充足率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

《推薦入試（広島県地域枠コース）実施状況》

区分・ 入学年度	平成30 年度	平成31 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度
募集人員	2	2	2	2	2	2	2
志願者数	13	12	10	4	5	14	12
志願倍率	6.5	6.0	5.0	2.0	2.5	7.0	6.0
受験者数	13	12	7	4	4	12	5
入学者数	0	2	0	0	2	2	1
定員充足率	0%	100%	0%	0%	100%	100%	50%

《推薦入試（兵庫県地域枠コース）実施状況》

区分・ 入学年度	平成30 年度	平成31 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度
募集人員	2	2	2	2	2	2	2
志願者数	16	24	22	11	18	13	15
志願倍率	8.0	12.0	11.0	5.5	9.0	6.5	7.5
受験者数	16	23	16	11	16	12	11
入学者数	1	2	2	0	2	2	2
定員充足率	50%	100%	100%	0%	100%	100%	100%

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

本学で開催する入試説明会（高校教員向け、受験生向け）、オープンキャンパスに加え、県が主催している説明会において、地域枠コースや地域医療に関する説明や質疑応答を行っている。オープンキャンパスでは、地域枠の在学学生も参加し、受験予定者からの質問に対応してもらっている。また、令和2年度選抜、令和3年度選抜において欠員であった広島県に関しては、広島県担当者と本学地域医療人材育成講座の教員が高校を訪問し、地域枠に関する説明を行っている。加えて、令和5年度、令和6年度に文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」の一環で、岡山大学、島根大学、香川大学、鳥取大学による「高校生向け 地域枠・地域医療合同説明会」を開催した。

以上のように、地域枠コースや地域医療をまずは知ってもらうところから、興味はあるが分からないことがあって心配だという気持ちを抱える高校生やその保護者に対して個別に丁寧に説明を行っていくことにより、学生確保に努めている。

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

本学医学部医学科では、医の倫理に徹し、科学的思考法と高度な医学的知識・技術を体得し、生涯学習を通じて社会的信頼を得るに足る臨床医並びに医学研究者を養成し、もって人類及び国際社会の健康と福祉に貢献す

ることを使命としている。国内では特に中国四国地方を中心に、近畿西部地域にわたる幅広いホスピタルパートナーシップを構築し、多くの関連病院を束ねている。それは地域医療に関しても本学医学部医学科の使命の下、地域医療を担う上で必要な総合的診療能力を有する医師の育成、地域医療の充実や医師確保に関する教育研究並びに地域医療の支援、地域の診療現場や行政と連携し、適切な地域医療提供体制の構築を行うことが必要であると考える。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

岡山県の医師偏在指標は全国平均を上回っているが、地域や診療科による偏在があり、県北地域や中山間地域等の医師不足が課題となっている。特に、二次保健医療圏5圏域のうち、2圏域(高梁・新見, 真庭)の県北部については、医師少数区域であり、また、医師多数圏域の2圏域(県南東部圏域, 県南西部圏域)においても、それぞれ大学病院がある岡山市, 倉敷市以外は医師が不足している。また、診療科偏在については、小児科は真庭圏域, 産婦人科は津山・英田圏域が、それぞれ相対的医師少数区域にあたる。また、5圏域(県南東部(岡山市を除く), 県南西部(倉敷市を除く), 高梁・新見, 真庭, 津山・英田)における65歳以上の医師の割合の増加が著しい。

広島県では、岡山県に隣接等する県東部地域(福山・府中圏域, 尾三圏域)における医師偏在指標が、全国平均を下回っており、県内7圏域の中で最も低い。広島県東部地域の中山間地域等に勤務する医師の確保が急務である。また、広島県の小児科医偏在や分娩取扱医師偏在指標は、全国の下位1/3に該当し、著しく低い。

兵庫県の医師偏在指標は全国平均を上回っているものの、二次医療圏別で見ると、8圏域のうち神戸, 阪神圏域は全国平均を下回っており、地域偏在が生じている。また、兵庫県の分娩取扱医師偏在指標は、全国の下位1/3に該当している。診療科別医師数で見ても、産科・産婦人科は横ばいで推移している。引き続き、県内のどの地域でも安心して医療が受けられる地域医療体制の確保が課題となっている。

本学では、平成21年度から平成29年度までの「緊急医師確保対策」に基づく岡山県地域枠5名、「経済財政改革の基本方針2008」の「医師不足が深刻な地域や診療科の医師養成の推進策」に基づく5名の恒久入学定員増、平成22年度に「経済財政改革の基本方針2009」に基づき平成31年度までの期限を付した7名の臨時定員増、平成23年度の「新成長戦略」(歯学部入学定員の削減を行う大学の特例)として3名の増員(一般入試)、平成30年度には、平成29年度を期限とした増員の暫定措置の延長として、岡山県地域枠2名の増員を行ってきた。

さらに、「経済財政運営と改革の基本方針2018～少子高齢化の克服による持続的な成長経路の実現～」(平成30年6月15日閣議決定。骨太の方

針 2018) , 「経済財政運営と改革の基本方針 2019～『令和』新時代 : 「Society5.0」への挑戦～」(令和元年 6 月 21 日閣議決定。骨太の方針 2019) に基づく, 文部科学省高等教育局長及び厚生労働省医政局長通知「地域の医師確保等の観点からの令和 2 年度医学部入学定員の増加について」(令和元年 9 月 2 日付け元文科高第 391 号, 医政医発 0902 第 3 号), 「地域の医師確保等の観点からの令和 4 年度医学部入学定員の増加について(通知)」(令和 3 年 8 月 16 日付け 3 文科高第 501 号, 医政発 0816 第 9 号), 「地域の医師確保等の観点からの令和 5 年度医学部入学定員の増加について(通知)」(令和 4 年 8 月 10 日付け 4 文科高第 627 号, 医政発 0810 第 4 号) 及び「地域の医師確保等の観点からの令和 6 年度医学部入学定員の増加について(通知)」(令和 5 年 8 月 8 日付け 5 文科高第 669 号, 医政発 0807 第 12 号) により, 平成 31 年度の入学定員を超えない範囲でその必要性を慎重に精査し, 医学部定員を維持してきた。令和 6 年度までに 124 名の地域枠学生を確保し, うち 76 名が卒業, 各県の地域医療に貢献しているところである。このたび, 「地域の医師確保等の観点からの令和 7 年度医学部入学定員の増加について(通知)」(令和 6 年 8 月 7 日付け 6 文科高第 738 号, 医政発 0807 第 5 号) を受け, 岡山県が実施する「岡山県医師養成確保奨学資金貸与制度」, 広島県が実施する「広島県医師育成奨学金制度」, 兵庫県が実施する「兵庫県養成医師制度」のこれまでの実績と, 「令和 7 年度の医学部臨時定員増について」(令和 6 年 7 月 29 日付け事務連絡) で認められた臨時定員数を基に, 今後の必要性を各県と協議し, 地域枠定員の措置が必要であるとの結論を得て, 医学部医学科の入学定員 7 名(岡山県地域枠 3 名, 広島県地域枠 2 名, 兵庫県地域枠 2 名) の増員を行うものである。